

こんにちは。お世話様です。

こんにちは。お世話様です。1月も、あっという間に過ぎました。弊社のある、長門町は、1月14(金)・15日(土)の2日間に、「おたや祭り」というお祭りがありました。この祭りは歴史が古く、天保6年(1835年)頃から行われているそうです。もう170年近く行われているのですね。

お祭りの特徴の1つに、「山車 だし」があります。これは動き回る山車ではなく、町内に5ヶ所の場面を作り、干支や大河ドラマにちなんだ場面が作られる事が多いようです。今年も、牛若丸の五条大橋の場面がありました。

それと、14日の夜に花火が上がります。花火は実は、長門町商工会 青年部が実行しています。今年で10回目になりました。私もその青年部所属で、花火打上げ現場担当です。当然、花火屋さんが上げますが、真下で見る花火も、また格別のものがあります。特権です。

写真は携帯で撮ったので小さいのですが、左が五条大橋の場面の山車で、中と右側が花火の写真です。



さて、前振りが長くなりました、すいません。第10回目のお話をしたいと思います。今回は、住宅の構造、骨組みの違いについて、お話したいと思います。

骨組みにも、いろいろあります。木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造等です。その中でも分かれて、木造の中でも、在来工法・2×4工法・パネル工法・組積工法(ログハウス)等、あります。木造の細かい話は後にすると、木・鉄骨・鉄筋コンクリート造の特徴・長所・短所をお話します。

まず、木造からお話します。住宅のほとんどを占めている構造です。工法は木を組み合わせて作るのが、一般的です。長所は木を使うので、他の構造より軽くて、経済的な事です。それと、増築・改築が容易にできる事です。これは木造でも、全てに当てはまる訳ではなく、2×4・パネル・組積造は容易にはできません。やはり、そういう面では、在来工法が適していると思われる。

鉄骨造は、鉄骨を柱や梁に使う構造です。ハウスメーカーさんで言うと、セキスイハイム、ダイワハウス、パナホーム、トヨタホームさん等が鉄骨造です。ほとんどが壁まで出来ています。ブロックを組み合わせるように作りますので、1日で家の形になってしまいます。

長所としては、地震に強い事と、骨組みをほとんど工場で作って来るので、工期が短縮できる事です。

短所としては、意外と皆さん、知らないのですが、**鉄が火に強い**と思われているのは、**間違いです**。鉄骨も800℃以上の高温になると、**アメの様に溶けてしまいます**。ですから、火事等の高温になると、溶けて崩れてしまいます。少し前ですが、埼玉県の量販店「ドンキホーテ」が放火されて、屋根が落ちて崩れてるニュースを見ました。住宅ではないですが、溶けて崩れている現象は同じです。

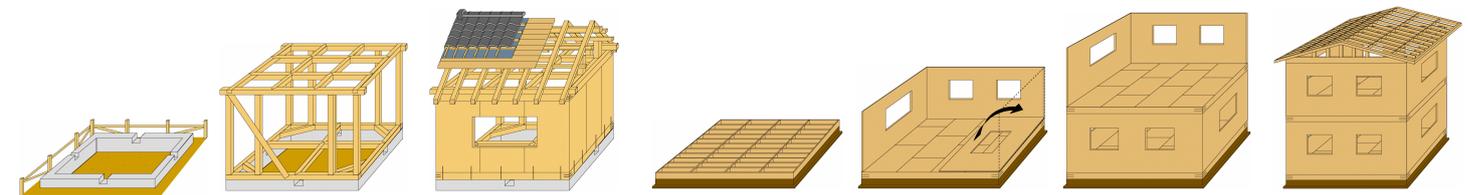
それともう1つ。鉄骨造は、「**結露**」に弱いのです。特に長野県のような、寒暖の差が激しい地域は、鉄骨が結露を起こし、サビて腐り、最悪の場合は外壁にサビのシミが出る可能性もあるのです。

あと先程、地震に強いと書きましたが、ブロックを組み上げて作ってるので強いですが、地方に合わせた住宅ではないので、結露等の問題が出ています。去年、新潟中越地震の被害に遭った鉄骨造の家は1件もなかったそうです。**それは地震に強かった訳ではなく、鉄骨造そのものの住宅がなかったのです**。その理由は、地震の被災地は豪雪地帯で、3階建て位の基礎を上げた住宅は、ハウスメーカーさんの住宅の仕様にはなかったからなのです。

鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートを組合わせて作る構造です。長所としては、木造・鉄骨造より、強度のある建物ができます。また、熱にも強く、夏も涼しく過ごす事ができる構造なのです。

欠点としては、地震に対して強いのですが、ヒビが入って壊れた構造体は、修復が不可能な事です。また、コンクリート自体の重量がある為、建物の構造体が重くなってしまいます。それに、今まで話した中でも1番の欠点は、コンクリート自体が高い金額な為、施工費がかかる事です。ですから、住宅も高額なものになってしまいます。

結果として、日本の風土・気候に適しているのは、過去からの歴史を見ても、**木造が1番適しているのです**。日本の昔から根付いた文化が、木の文化である事を証明しています。



一般的な在来工法(エムワン・ホームとは違います)

パネル工法

さて、先程言いました、木造のいろいろな工法を御説明します。

在来工法は後に御説明します。まず、先月にも書きました、2×4工法です。この前の復習で2インチ(約5センチ)×4インチ(約10センチ)の大きさの材料を使い、柱の代わりにします。壁には構造用合板を張り、筋交いの代わりにしています。地震には強い工法で、欧米から来た工法です。

パネル工法は、2×4工法の壁を、断熱材を中に挟んで、両側に合板を打ち付けたパネルを使っています。それをつなぎ合わせ、1部屋ごとを1つの箱として組み上げ、それを重ねて家にする工法です。ハウスメーカーさんだと、ミサワホーム・エス・バイ・エルさん等がパネル工法の家を建てています。

組積工法(ログハウス)は、丸太(場合によれば、角材)を、積木の様に順番に組み上げていく工法です。これも、欧米から来た工法です。材木が壁になりますので、断熱効果があります。欠点は、金額が高いのと、メンテナンス費用がかかる事です。外部も材木ですので、風雨にさらされます。よって、色の変色・色あせ・材木の腐朽等が考えられます。

以上、前で述べた、3種類の工法は、各々の長所はありますが、共通して言える事があります。それは、先程も申し上げましたが、**簡単に増・改築が出来ない事です**。これは前に述べた、鉄骨造にも言える事なのです。どの工法も、力を壁等で持たせているので、不用意に壁を取り除いて、増築する訳にはいかないのです。

その点、在来工法は、柱・壁等の移動が容易で、増築も問題ありません。先月号でお話した様に、壁をパネル化や金物の補強で、地震力に対する力を上げています。

いずれにしても、**完璧な住宅はありません**。長所・短所はいろいろありますし、お客様の好みもあります。家を建てる決心をされたら、自分に合った家がどういうものか、早く見極める事です。御相談はもちろん、お受けしますので、何なりとお聞き下さい。

また、皆様の中で、取り上げてもらいたいテーマがありましたら、御連絡下さい。私の携帯でも、メールでも構いません。よろしくお願いします。

M-ONE HOME

(株)モリケン

TEL:(0268)68-2225 FAX:(0268)68-2196 森田携帯(090)2215-8356

URL:http://www.moriken-motto.com E-mail:mail-info@moriken-motto.com